



ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん なかよ たす あ
日本人と外国人が、仲良く助け合っ
たの せいかつ わが かつどう
楽しく生活していくことを願って、活動を
つづ 続けています。

くろするる〜ど

2021 / 2月号 第257号

かいほうし
会報誌

★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★



★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

げっかん がつ
〜サロン月間カレンダー〜2月〜

こくさい かい はっぴょうしゃ
「国際ふれあい会・発表者が
き
決まりました」

かつどうきゅうしえんちよう し 活動休止延長のお知らせ

1月8日に、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐための緊急事態宣言が出されたことにより、年明けからサロンの学習会とそのほかの活動(少人数による部会の打ち合わせ等を除く)を休止していました。しかし、緊急事態宣言を3月7日まで延長することが2月2日に決定したことにともない、サロンも活動休止を延長することになりました。再開時期は、追ってお知らせします。

詳しいことはサロン事務局で聞いてください。

■日本語学習会(当面は休止)

3学期の期間：1月8日(金)～3月19日(金)
月(午前・午後)・水(午後)・金(午後・夜)

■実行委員会

2月10日(水) 午前10時～12時(中止)
場所：サロン3階 会議室

■文化交流活動とその他の企画活動

文化交流活動はしばらくの間、お休みします。
なお、「国際ふれあい会」は、4月、5月(予定)の2回に分けて実施することになりました。詳しくは右の欄の記事をご覧ください。

毎年、実施されていた「国際ふれあい会～私のふるさとを語る」は、新型コロナウイルス感染予防のために延期となっていました。4月24日(土)と5月以降(日時未定・当初予定していた3月6日を延期)の2回に分けて実施することになりました。発表される学習者も昨年末に決まり、今年は6ヶ国7名の方々に自国の魅力を紹介していただきます。実施要項と、発表される方々のお名前、国、所属する学習会は以下のとおりです。

- 1回目日時：4月24日(土) 午後3時～4時半
- 2回目日時：5月以降予定(日時未定)
- 場所：サロン学習室

発表者名	国名	学習部会
オダヴァイヌ クレモン	フランス	月・午前
イレフ	チュニジア	金・午後
長久保 まり	中国	金・午後
クリス ダフィ	オーストラリア	金・夜間
ゲエン ニュエン ハイドン	ベトナム	金・夜間
理想	中国	金・夜間
加藤 エスメラルダ	フィリピン	月・午後

(敬称略)

(注)新型コロナウイルスの感染状況によっては、実施日の変更、または中止の場合もあります。詳しいことは、追ってお知らせします。

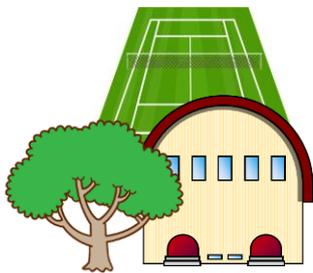


世界の文化

「日本の生活」

グエン ハイ ドアン (ベトナム)

十二年前に東京農工大学の修士を勉強していました。府中市に住んでいたのです。今度、上智大学の博士を勉強している、府中市から大学までちょっと遠いながら、もう一度府中市に一人です。府中市はとてもきれいで便利な所ですから。ここに



はたくさん公園とか体育館とかテニスコートがあります。今、新型コロナがあるので、私はろくに大学へ行きません、オンラインで勉強とセミナーと研究もします。健康

のために、毎日のように運動して、例えば、ベトナムの友達と一緒にテニスをしたり、ジムにいたり、ジョギングをしたりします。ほかに毎週の金曜日にサロンで日本語を勉強することはとても面白いです。日本に住む限り、日本語の勉強をあきらめないつもりです。1月の計画は、長野県へスキーに行くことです。楽しいと思います。現在、私がかなり楽な暮らしをしています、何よりも新型コロナを早く終わり、生活は普通になって、ベトナムへ家族に会いに帰りたいです。

「家族と一緒にすごせた幸せなお正月」

李 嵐 (中国)

今年のお正月はコロナのため、帰国ができないし、旅行ができないし、いろいろやりたいことはできなかったです。残念だと思いますが、家族と一緒にいて幸せと感じます。

子供がいるので、お正月の休みは出来るだけ家で過ごすことに決めました。大晦日の前日は、主人と一緒に大掃除をしました。この習慣は中国と同じです。汚れを落として新しい一年を迎えます。

今年初めておせちを注文しました。伝統的な料理だけではなく、洋風の料理もある三重のおせちです。日本の料理はやっぱり目を楽しませる料理です。初めて食べるので料理の意味を調べながらメニューを見て、とてもおもしろい晩御飯でした。でもおせちは全部冷たい料理なので、温かい料理も食べる習慣がある中国人にとってなれるのに時間がかかります。

元旦は家族と一緒に初詣に行きました。去年より人が少なくなりました。それに屋台が出ていないから、多少寂しさを感じました。

コロナは人々の正常な生活を混乱させました。この文を書いている時、東京は2度目の緊急事態宣言を発表しました。中国も感染者が増加しました。でも一年経って、コロナにだんだん慣れてきました。あまり心配しなくなりました。何がなんでも生活を続けたいです。人類は自然界でとても小さな存在だと思います。私にとって今からできるだけ自粛して密を減らしてコロナが早くなくなるのを願うばかりです。





わたし
私のふるさと ～29～

こも び なか み ゆめ
「木漏れ日のなかで見た夢」

り えいがい ちゅうごく
李 永艾 (中国)

少年時代は農村で過ごしていた。中国西南部の雲南省昆明市における倘甸に育ってきた私は、人生の中で一番美しかった思い出も農村に関するものである。

春のときは、友達と一緒に山の奥に行き、つじを摘んだ。山々はつじの赤さに覆われており、まるで燃えている世界であった。その時は世界の隅々までも冴えてしまったように、深い呼吸をすると体がさわやかになった。堤の両側で柳が古代美人のように美しい姿をして並んでいた。葉っぱが知らず知らずのうちに育ってきた。まるで「誰が薄い葉を切ったのかわかりませんが、二月の春のそよ風は、ハサミのようです」「不知细叶谁裁出，二月春风似剪刀」(注参照)である。知らず知らずのうちにツバメも飛んできた。柳の枝に立っており、春の歌を自由に歌っている。小さい頃はツバメが裁縫と思っただ。彼らがハサミのような尾を持っており、青空を速やかに飛んでいく際に、ハサミを使ってこの世界のために服を作っている。万物が蘇り始めており、風が春のメッセージを広げていく。

夏になると、祖母の菜園の木の横になっており、木漏れ日の中でいい夢を見ていた。目を開けたときに、農作物の世話をする祖母の姿がまた見えた。夕方になると、日が山々の後ろに沈んでいくとき、私が広い畑を通り抜けて家に帰る。その畑には青いソラマメが育っていた。まるで広い草原のように風が来ると、波が遠いところからやってきた。

(注) 引用した漢詩は、唐代の詩人・賀知章による『詠柳』の一部です。「碧玉妆成一树高，万条垂下绿丝绦。不知细叶谁裁出，二月春风似剪刀。」

日本語訳文：『詠柳』賀知章「碧玉でできたような

柳は、無数の枝が垂れて美しい緑の糸のようだ。この繊細な柳葉は誰が作っただろう。二月の春風はハサミのように切ってくれたかな。」



昆明市にある翠湖公園の柳とカモメ

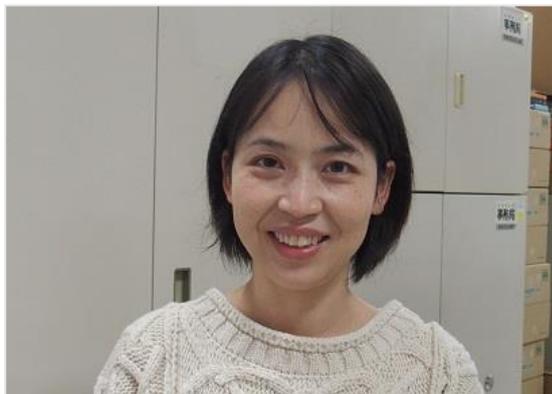


倘甸の夕暮れ



皆さんよろしく◇学習者紹介

呉 娟さん(中国)



「会計士の仕事が好きです」

2018年10月広東省広州市から来日しました。

日本の大学を卒業し、日本の会社で働いていたご主人が、広州市に転勤で5年間滞在していた間に逢い、2014年結婚することになりました。そして2年前にまた日本に転勤になり、家族も一緒に来日することになりました。

大学で会計学を学び、会計事務所で会計士として働いていた呉娟さんは、お子さんが出来ても、実家のお母さまの助けもあり、日本に来るまで仕事を続けていました。今では二人のお嬢さんも5歳と2歳になり、保育園に行っています。

サロンには週2回来て日本語を勉強しています。日本語が上達したら、日本で会計士としてはたらくために、日本の会計、税法の勉強をして会計士の資格を取りたいと思っています。

サロンでは日本語の勉強も楽しいですが、人と話すのが好きなので、お友達がたくさん出来て喜んでいきます。

趣味は旅行とお料理です。今までに大阪、神戸、京都に行きましたし、日光にも行きました。故郷の広東省は暖かく雪が降らないので、冬にはスキーをしに東北に行きました。(取材・文構成 堤 林)

「外大連携PJ 発表会を終えて」

外国人のための部屋探しをテーマに、外大生21名が参加し、ガイドブックの作成とその発表会(1月8日)を行いました。作成を担当した各班の代表からコメントをいただきましたので紹介します。

「今年度はコロナ禍の影響により、全てオンラインで生活便利帳を作成することとなり、コミュニケーションや作業にあたって前例のない課題が多くありました。そのような中でも最善を尽くし、このように完成報告会を迎えられたことを大変喜ばしく思います。手厚いご協力をいただいた府中市役所と府中国際交流サロンの皆様に、心から感謝申し上げます。また、この便利帳が多く外国人住民の方々に活用されることを願っています。」

(学生代表・佐野 遥) ※

「難しいテーマでしたが完成させられて良かったです！」

(学生代表・東 健介)

「作業を通して大変多くのことを学ばせて頂きました！」

(レイアウト班・大賀 瑞希)

「貴重なご意見を頂き大変勉強になりました！」

(部屋探し班・中野 智映子)

「沢山の協力のもと完成させることができ嬉しく思います！」

(契約班・森脇 瑞希)

「協力して楽しく制作できてよかったです！」

(入居班・下村 望遥)

「学びの多い貴重な経験ができて良かったです！」

(住み方班・田川 知佳)

「沢山の外国人の方に活用して頂けたら嬉しいです！」

(退去班・宮北 芽衣)

※東京外国語大学ホームページから引用。東 健介さん、松田 優花さんのコメントもあります。

http://www.tufs.ac.jp/NEWS/student/210113_3.html



ガイドブックの表紙



オンライン発表会

とう こう 投◇稿

「外大連携プロジェクトを振り返って」

きんようよる いはら ひろみ
金曜夜ボランティア 井原 博美

とうプロジェクト (以下PJ) は、すえださんにひきつぎましたので、過去2年半を振り返ってみたいと思います。2018年度の「公共施設」、2019年度の「防災」、2020年度の前期に参加しました。

ボランティアを始めて6カ月が過ぎたところで、とうPJを知りました。外国人に有益な情報を小冊子などにまとめることで、役に立つことに興味を持ちました。また東京外国語大学 (以下外大) へは、自転車で7~8分というのも魅力でした。

さっそくさんか がいだい い ぜんきじぎょう
早速参加して外大に行くと、前期授業のまとめの発表日でした。学生達は、担当の国の公共施設について、趣向を凝らして発表していました。あれもこれもと公共施設が有る訳ではなく、アジアの某国などは、集まるといったら、お寺しかないというもありました。その後私達聴講者含めてのグループ討議です。

さて後期はというと、私がサロン側の取りまとめ役でした。引継ぎが無かったので、サロン側のミーティングには必ず市役所のご担当者が参加することも知らず、土日を入れて、メンバーに都合の良い日をお尋ねする有様でした。

がいだい じゅぎょう さんか かいほど ため がくせい
外大の授業に参加するのは3回程の為、学生とサロンとで、思いが乖離することが有ると聞きました。その対策として、学生からの金曜日の授業報告に対して、サロン側の意見を取りまとめて、次の授業に間に合うように返信することを自分に課しました。忙しくなりましたが、外大でも評価して下さり定着しました。

しょうきつし しきくぼん がくしゅうかい かいらんして みなさま
小冊子の試作版を、学習会で回覧して、皆様にコメントの書き込みをお願い致しました。まだ公園しか知らない学習者さんのコメントに接した際には、ふらっと行っていい施設が沢山あると知らせたい気持ちが強まりました。

ねんめ ぼうさい はや だんかい よ しょうきつし
2年目の「防災」では早い段階で、良い小冊子への手応えを感じることがありました。

がつ さいご じゅぎょう がくせいたち はつびょうかい
1月の最後の授業では、学生達は発表会をしますので、彼らは、年末年始の休暇返上で、取り組みます。

わたし で き あ がった しょうきつし がくしゅうかい つか
私は、出来上がった小冊子を学習会で使っています。学習者さんの居住地や趣味に合わせて、場所・物・事をお知らせするのに、有益な情報源と実感します。多くの皆様が、主なメンバーとして、2~3回ずつ参加なさることを願います。



わたし 私の☆つぶやき

コロナ禍の日々をどのように過ごしているか、また、これまでの日常と変わってしまったことなどについて、サロンの皆さまの「つぶやき」を特集します。

工夫して学習しています

金曜夜ボランティア 堀内 江梨子

コロナを防ぐためには3密を防ぐことが大切と言われています。「密閉」「密集」「密接」これは、換気と大人数で集まる事を避ける事、最低でも1メートル以上人との間を開ける事が必要と言う意味です。

3密を避けている学習会ですが、家族にお年寄りや小さな子供が居て参加できない方もいるかもしれません。そこで携帯電話、スマートフォン、パソコンを使って授業をするのも良いかと思えます。

私はHoang HueさんとLINEを使って週に1回授業をしています。毎週授業が始まる前に、Hoangさんが学習したテキストを写真に撮り、それをLINEで私に送ります。授業が始まる前に私はそれを読みます。

そして授業はスマートフォンをカメラに使い、パソコンで文字のやり取りをしています。現在LINEでは一度に49人と話せるようになりました。ビデオと文字の送受信も同時に出来るようになりました。

皆さまはLINEをお使いですか？先生に話を一度試してみませんか？

わたしの Stay at Home

才丸 パンナライ (タイ)

コロナのはじまりのときは、わたしもまわりのひとたちも、どうしたらよいかわからなくてすこしパニックになりました。

なにきをつけたらいいか、まずさいしょはマスクをして、いえにかえったときはてあらいをし、たいおんをはかることをまいにち、わすれずにする

ことでした。

それから、かいものにいったときに、おみせにはいるときとでるときに、かならずしょうどくをすることに、だんだんなれていきました。

それからパスポートのこうしんが、ちょうどコロナがはじまってからだったので、いままでとちがって、まず、けいたいのでやくをすると2~3しゅうかんで、よやくのにちじをしらせてきます。そしてわたしがそのひにいてパスポートをつくり、そのあと、できたパスポートをゆうそうしてくれました。

はやくコロナがおわってほしいです。それがわたしのおしょうがつのいのりです。

未だに右往左往しています

水曜・金曜午後ボランティア 牛丸 三枝

コロナウイルスが世界中にまん延してもう1年程経ちました。昨年3月からのあまりの世の中の変化のように、気分的には未だに右往左往しています。

テレビのニュース、ワイドショーなどの報道をみると、一歩外に出たら空気中にまん延しているコロナウイルスに取りつかれてしまうのではないかとさえ思ってしまう。

でも外出してみれば、街はいつもと同じにぎわいで、景色も変わっていません。

帰宅して手洗いを丁寧に、着ているものを消毒して（これは、最初の2ヶ月位で、今はやっていない）マスクは使い捨て以外のものは、丁寧に洗い・・・これ以上のことは何をすれば良いのか、いつ終わるかもわからないコロナ禍にどう対処すればよいのか、本当に何もわかりません。

7月頃からは、コロナにうんざりし、気がゆるんだりしてバスツアー、コンサート、会食などに出かけています。それでも私は元気で体調も良いですし、ニュースやワイドショーの世界とのギャップにとまどっています。

とりあえず私の出来ることは、マスク、手洗い、消毒を欠かさず、3密は常に忘れずにいること以外は思いつきません。

まつ
「ヒマラヤスギは、松」

み
「きみを見つけた…」

きんようよる わだ やすひろ
金曜夜ボランティア 和田 泰弘

ヒマラヤスギは、ヒマラヤ^{さん}産で、葉の形^{かたち}がスギに似ていることから、その名の由来があります。

ただし、スギ^{るい}類ではなくマツ^か科なので松^{まつ}ぼっくりが、落下^{らつ}します。それが乾燥^{かんそう}すると、やがてシダー



ローズの名^なで呼^よばれる、まるでローズ（薔薇）のような見た^み目^めになります。写真は頂^{しやう}いた^{いた}シダーローズです。

ヒマラヤスギは、松^{まつ}ですが松^{まつ}の語源^{ごげん}には、長寿^{ちやうじゆ}を「たもつ」が転^{てん}じて「まつ」と呼^よばれた^たなどがあり日本^{にほん}では長寿^{ちやうじゆ}の象^{しやう}徴^{ちゆう}です。

松^{まつ}で思^{おも}い出^だすのは、大津波^{おおつなみ}の際^{さい}に耐^{たい}え残^{のこ}った「奇跡^{きせき}の一本^{いっぽん}松^{まつ}」です。その木片^{もくへん}は、バイオリンの魂柱^{こんちゆう}とよばれる部分^{ぶぶん}に用^{もち}いられ、追悼^{ついとう}の想^{おも}いと被災地復興^{ひさいちふくこう}への願^{ねが}いを音色^{ねいろ}に乗^のせて弾^ひき継^つがれています。そのバイオリニストである脳性^{のうせい}まひの困難^{こんなん}と闘^{たたか}い、虐^{いじ}めにも負^まけなかつた青年^{せいねん}は、東北^{とうほく}を訪^{おとず}れた際^{さい}に『希望^{きぼう}への道^{みち}』を作曲^{さつきやく}しています。

松^{まつ}の語源^{ごげん}には行く末^{ゆすえ}を「待つ」の説^{せつ}もあります。今はコロナ禍^かですが、困難^{こんなん}なときにも負^まけないで「待つ」という付^つき合^あい方^{かた}で「希望^{きぼう}への道^{みち}」を歩^{あゆ}んでいきたいものです。
(編集部 末田)



「きみを見つけたこの渚^{なぎさ}に…」この歌詞^{かし}に懐^{なつ}かしさを抱^{いだ}くのは、おそらく古希^{こき}前後^{ぜんご}の方々^{かたがた}では。かく言う私^{わたし}も、ザ・ワイルドワンズ^{うた}が歌^{おも}ったこの『想^{おも}い出^だの渚^{なぎさ}』の虜^{とりこ}になり、今^{いま}でも自分^{じぶん}のバンドのレパ^レートリー^ーになっています。この正月^{しやうがつ}、グループサウ^{サウ}ンズ^{ンズ}の特集^{とくしゅう}番組^{ばんぐみ}を観^みているとそのなかで、リードボ^{リードボ}ーカル^{ーカル}を担^{たん}当^{とう}していた鳥塚^{とりづか}しげきさんが、デビュ^{デビュ}ー^ー当時^{とうじ}、歌詞^{かし}について作詞家^{さくし}・岩谷^{いわた}時子^{ときこ}さんと交^かわしたエピソード^{えいぽすど}を披^ひ露^ろしていました。

「この歌詞^{かし}を書^かいたのはどなた?」「ボクです」「私^{わたし}には人^{ひと}を、モノを見^みつける^つみたい^{たい}にみ^みつける^つことはできない。人^{ひと}と人^{ひと}は、出^で会^あうと^とかめぐり逢^あうとか、そうい^{ひやうげん}う表現^{ひやうげん}をするもの^{もの}じゃ^{じゃ}ないかしら」。

鳥塚^{とりづか}さんはこの話^{はなし}を振^かえり、「19歳^{さい}の青年^{せいねん}だ^だたし、心^{こころ}の中^{なか}では女^{おんな}の子^こを見^みつけた。シーサイ^{シーサイ}ド^ドでステ^{ステ}ー^ージ^ジや^やり^りな^なが^がら^らキ^キョ^ョロ^ロキ^キョ^ョロ^ロしてビ^ビキ^キニ^ニの女^{おんな}の子^こが^がい^いると^とか。それが素^す直^{なお}に1行^{ぎやうめ}目^めの詞^しにな^なった。」と思^{おも}い出^だを語^{かた}っていました。

ナンパと本^{ほん}気^きがせめぎ合^あった19歳^{さい}の心^{しん}情^{じゆう}には、「めぐり逢^あった」より、「見^みつけた」のほう^{ほう}がハ^ハマ^マった^たのでは。遙^{はる}か昔^{むかし}のわ^わが^が身^みにも覚^{おぼ}えが^があ^あります。

日本語^{にほんご}には、人^{ひと}と物^{もの}に使^{つか}い分^わけ^わをする^すことば^ばが^があ^あります。この正月^{しやうがつ}、5歳^{さい}の孫^{まご}娘^{むすめ}に、「部^へ屋^やに^にパ^パパ^パが^が〇〇」「机^{つくえ}に^に本^{ほん}が^が△△」のよ^よう^うな「あ^ある・い^いる」文^{ぶん}のク^クイズ^{イズ}を^をい^いく^くつ^つか^か出^だした^{した}と^ところ、混^{こん}乱^{らん}なく^{なく}す^すべ^べて^て区^く別^{べつ}でき^きました^たが、「ど^どう^う違^{ちが}う^うん^んだ^だろ^ろう?」と尋^{たず}ねると、勉^{べん}強^{きやう}の匂^{にお}いを察^{さつ}知^ちした^{した}の^のか、さ^さつと^と話^わ題^{だい}を^を変^かえ^えら^られて^てしま^まい^いました。ほ^ほか^かにも^も使^{つか}い^い分^わけ^けが^があ^あること^とば^ばに「あ^あげる」「や^やる」が^があ^あり、「犬^{いぬ}に^に餌^{えさ}を^をあ^あげる」、「花^{はな}に^に水^{みず}を^をあ^あげる」で^では^はなく、動^{どう}植^{しよく}物^{ぶつ}には「や^やる」を^を使^{つか}う^うの^のが^が一^{いっ}般^{ぱん}的^{てき}の^のよ^よう^うです。

連^つれ^れ合^あい^いを「見^みつ^つけて」、い^いや、「出^で会^あって」から45年^{ねん}、「見^みつ^つけた」な^など^どと^と言^いお^おう^うもの^{もの}なら、「わ^わた^たし^しは^は落^おと^とし^し物^{もの}?」と逆^{ぎやく}襲^{しゆう}され^れそ^そう^うです。

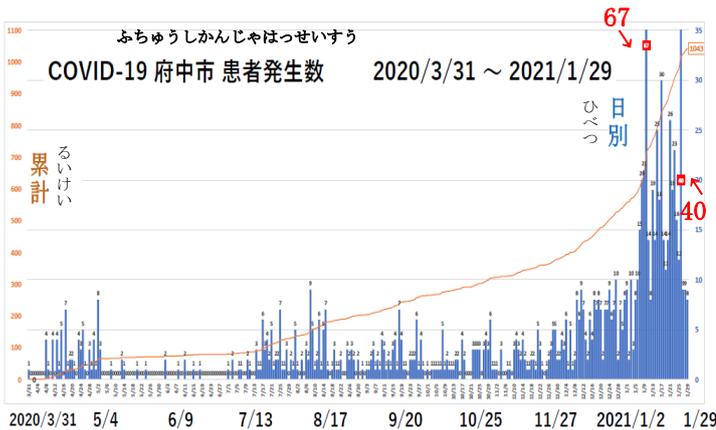
みんなの広場

へんしゅうこうき
～編集後記～

「新型コロナウイルスの情報」

府中市の新型コロナウイルスの患者発生数（感染者数）の変化をグラフで紹介します。

1月29日時点の患者発生数の累計は、1043人です。



（注）日別の最大目盛り35名を超える67名は1月10日、40名は1月26日です。

5ヶ月前に正式に会報部会員になり毎号の『くろすろ〜ど』を仕上げるまでのいろいろな作業の体験をしています。まず旬の話題が中心の企画案に始まり、原稿（取材、写真を含む）の依頼と収集、続いてレイアウト、校正と校閲、印刷、発行が毎月繰り返されています。集合作業が難しい時にはテレワークとなっています。

コロナ禍でイベントの話題がなく発行が滞るかと思いきや、皆さまからコロナ禍ならではの魅力的な投稿を続々といただけ、平時と変わらずに作成ができて編集部では「災い転じて福となす」と捉えて励みにしています。（里村）

「1月号 編集後記の問題回答」

「おなか」「デカイ」「終わる」という言葉から、何を言っているかを考える問題は、わかりましたか？

3つの言葉をつなげて言ってみると「おなかでかいお（を）わる」なので、「お腹で貝を割る」になります。そんな動物がいますね。「ラッコ」です。

食事をして、お腹がいっぱいになり（お腹がデカくなり）、食事が終わるもいいですね。このように色々意見を出し合うと面白い答えがあります。想像することが、この問題の意義と言えるでしょう。

今は、コロナ禍で、医療従事者や関係者の人たちが、日夜、働いています。そういう人たちのことも想像して感染防止を心がけていきたいものです。

（編集部 末田）



【創刊】 1997年 11月

【編集】 編集長：和田泰弘
会報部会：堤林・和田・岩城・末田・里村

【事務局】 電話：042-352-4178
E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp
サロンのホームページ
<http://www.fuchukokusai.gr.jp>